

## 読書と豊かな人間性

松田美香

本年度「読書と豊かな人間性」を担当した。大変やわらかな科目名だが、実際に講義をするとなると大海に放り出された感じがした。実際、この1年は試行錯誤で終始したようなものである。

この科目名の言わんとするところはよくわかる。我流の表現を許してもらえば、「読書によって、人間の内面が耕されるというのは本当である」ということを、学生に実感してもらい、そのためのガイドの技法や心構えを学ぼうということである。言うは易し行うは難しの科目であると思う。

さて、前期に短期大学部英語科、後期に文学部（3年）を相手に行ったことを整理する。①筆者自身の自信を持って薦められる本を探して紹介することから始めた。敢えて趣味に走った本から紹介し、熱っぽく語ったつもりだ。また、取っ付き易さも重視し、短い詩やエッセーは実物を見せ、コピーしたりして同時に読んだ。②自分の愛読書の話もそう長く続かないので、それぞれの推薦本を発表してもらうこともした。③テキストから中・高校生への推薦書やランキングを紹介し、講義終了時までに関心のある1冊読むように薦めた。④後半に読書への誘いということで、ブックトーク他の図書館活動について講義した。⑤期末の課題は、読書案内（ブックリスト・ブックトーク）の作成とした。

今年度中に印象に残ったいくつかのことを書きたい。前期の英語科は、少人数だったので、シェイクスピアの「ハムレット」を朗読した。有名な場面を切り取り、ほぼ1人1役を担当して読み合わせ形式の簡単なものであったが、意外に照れもせず、むしろ面白そうにセリフを読んでいるように見えた。小田島雄志訳は、日本語でもシェイクスピアの面白さがわかると思う。もっと読んでもらいたいものだ。期末に彼らの作成した読書案内は、カラフルな絵や写真で飾られた楽しいものだった。

文学部では、先の②に書いたように「私のお薦めの本」を発表してもらった。このアイデアは、出席カード代わりに書いてもらった講義への感想や希望の中に書かれていたものである。実際には100名弱のうちの10名程度にしか発表してもらえなかったが、ここでも発表時には意外に熱心に取り組む姿があり、少し驚いた。私の紹介した本を手にとって読んでみたという学生も何名かいて、良書を求める気持ちが世代を超えて存在する、とやや大袈裟な感慨にも耽った。また、先の③に書いたように、世界の名作文学の中から、または中学生の人気本ランキングの中から1冊という課題を11月に決め、3週に渡って途中経過を出席カードを使って報告してもらうという方法を試みた。そのカードには、課題本の一冊をすでに読み終え、次に何を讀もうか考えているとか、何週にも渡って本を探し続けているとか、学園祭があったので読む暇がなくすみませんとか、それぞれの言葉でそれぞれの状況が書かれていて、毎週読むのが楽しかった。個人ごとにまとめてみたらちょっとした読書メモになったので、最後に返す予定だったが、時間の関係でそれができず残念である。彼らの作成した読書案内の中には、筆者もすぐに求めたくなるほど魅力ある紹介文も多数あった。

今年を受講生たちが数年後にどこかの図書館で、すばらしい読書案内を作成してくれることを願ってやまない。

（まつだ・みか 短期大学部講師）